

公益財団法人 大阪市博物館協会・公立大学法人 大阪市立大学 包括連携協定企画

博学連携講座 再論！ 真田丸と大坂の陣

大阪市立大学は、大阪市博物館協会と連携協定を結んでおり、共同で研究や教育に携わり、各種事業を行っています。

平成 29 年 11 月には最新の研究発表の場として、全 4 回にわたる連続講座を、大阪市立大学文化交流センターにて開催しました。のべ 382 名の方が受講、ご好評をいただきました。

第 1 回	11 月 6 日	絵図・地図からみた真田丸の位置と構造 大阪歴史博物館・研究主幹 松尾信裕
第 2 回	11 月 13 日	大坂冬の陣のなかの真田丸の戦い 大阪歴史博物館・学芸課長 大澤研一
第 3 回	11 月 20 日	発掘調査からみた大坂城外縁部と真田丸 大阪府教育庁文化財保護課 市川 創
第 4 回	11 月 27 日	豊臣時代の大阪とは何だったのか—歴史の転換点における城と都市— 大阪市立大学大学院文学研究科 仁木 宏

昨年度に開催したシンポジウム「真田丸と歴史学」に続き、未だ謎に包まれている大坂冬の陣の出丸・「真田丸」の場所や規模について、最新の発掘調査や研究成果などをご紹介しますとともに、新たに発見された資料や絵図に基づき探りました。昨年行われた発掘調査からは、残念ながら真田丸の位置や規模を示すような成果は出てきませんでした。しかし、この成果から改めて、構造物としての真田丸や合戦の内実、さらに武将・真田信繁（幸村）について再考するきっかけとなり、より研究が進んでいくものと思われます。

最後にまとめとして、大坂冬の陣にどのような歴史的意義があったのかを、考察しました。経済首都としての大阪の成長や、東アジア海域世界の変動の影響による日本社会自体の変化など、大きな視点からの考察に、受講者の方々は非常に熱心に聴講されました。



▶大変多くの方にご受講いただきました。



▶古地図と現代の地図を比較し、真田丸の位置や規模を探ります。